

図書館だより 10月号

令和6年10月21(月)発行
文責：司書教諭 三浦江利奈



抜けるような青空に美しい紅葉が映える季節となりました。後期の委員会活動がスタートしました。利用する人が増えるように活動内容を考えていますので、後期の図書館＆図書文化委員会も宜しくお願いします。多いに読書を楽しみましょう！



図書館利用状況



9月	利用者数	貸出冊数
1年(6回)	82	35
2年(3回)	33	2
3年(4回)	40	31
教職員	9	7
合計	164人	75冊



**忘れていませんか？
本の返却をお願いします。**

☆学校司書 三嶋より☆

「面白い本ありますか？」は司書が聞かれる質問ナンバー1 かもしれません。今回は読書の秋にちなみ、私が実際に読んで面白かった本（今回は物語）を若干のネタバレと共にご紹介します。“面白い”の基準は人それぞれですのでご承知おきを。赤中図書館にあります。本が気になった方はぜひどうぞ。

「エヴァが目ざめるとき」

ピーター・ディッキンソン 徳間書店

野生動物のほとんどが絶滅した近未来。チンパンジーの研究者である父親と出掛け事故にあった13歳の少女エヴァ。物語はエヴァが約8カ月の昏睡状態から目ざめるシーンで始まります。事故で体がメチャメチャになってしまったため両親は娘の脳の記憶をチンパンジーの脳に移し替え命を繋いだのです。体にはチンパンジーの心も残っていて…。エヴァにどんな運命が待っているのか読んで確かめてください。フィクションですがショッキングで考えさせられるお話です。



博士の
愛した
数式



「博士の愛した数式」 小川洋子 新潮社

事故の後遺症で80分しか記憶が持たない天才数学博士のもとに派遣された家政婦と息子(√ルート)との日々。読み終わる頃には頭が良くなったような感覚に…きっと数学が好きになります。実写映画(2006年)もおすすめです。

「ボッコちゃん」 星新一 新潮社

中学生の時に星新一さんを読みました。読書が苦手でも確実に読めます。当時、エ又氏やエフ氏で表現される登場人物が不思議で今読んでも古く感じません。小説の魅力が詰まった一冊です。

